

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)東九条ホテル ノース 新築工事**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>								<b>2.8</b>
<b>1.1 騒音</b>								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
<b>1.2 遮音</b>								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
<b>1.3 吸音</b>								
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>								
1 室温								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
<b>2.2 湿度制御</b>								
<b>2.3 空調方式</b>								
<b>3 光・視環境</b>								<b>3.5</b>
<b>3.1 昼光利用</b>								
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	共用部分:4.15% 宿泊部分:2.50%			
2 方位別開口								
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)				
<b>3.2 グレア対策</b>								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	宿泊部分:カーテン、庇により昼光制御			
3 映り込み対策								
<b>3.3 照度</b>								
<b>3.4 照明制御</b>								
<b>4 空気質環境</b>								<b>4.0</b>
<b>4.1 発生源対策</b>								
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆を全面的に使用			
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
<b>4.2 換気</b>								
1 換気量					1.4倍以上の換気量を確保			
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	1/10以上の開口面積を確保			
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>								<b>3.0</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)				
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点)				
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画				●とも D(独自基準)				
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計					維持管理方法が大きく異なる床材を接近させな			
2 維持管理用機能の確保					清掃作業を想定した電源を計画等			
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	劣化対策等級2相当			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					2.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			井水利用可能、節水型便器の採用	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.31	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観区域にあり、許可を得ている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制					2.0	0.26	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.21	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電の採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.6	0.32	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=28.4%	4.6		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.21	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				主要水栓は節水型、節湯型、節水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	GL工法(躯体と仕上げ材が容易に分別可能)	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68	-	-	
1	消火剤			ノンフロン断熱材の採用	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮					3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			附置義務以上の駐車台数を確保、管理用確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.50	-	-	
2	振動				3.0	0.50	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				-	-	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たす等	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる